

「芸術学部入試制度施策課題の検討と実践的対応」

報告：吉井 章

研究代表者：吉井 章

研究分担者：伊東敏光、及川久男、永見文人、海老洋、前川義春、
チャールズ・ヴォーゼン、秋山隆、土井満治、
松尾真由美

本研究の目的

研究の背景(着想に至った経緯)

2018年には、大学進学者数について最も減少するとされる人口の少子化動向が統計的に表れている。その対策として、以下の項目について検証を平成24年度指定研究費(継続研究)で実施した。

- ・入試制度について、施策課題を提言する。
- ・入試状況の過去のデータ分析と予測等について、検証。
- ・入試制度と今後の構想についての提出資料作成。
- ・平成24年度全学による、入試に関するアンケートを実施。
なお、「入試に関するアンケート」については、前号の第18号広島市立大学芸術学部芸術学科紀要において、平成22年～24年度特定研究(指定研究)報告で掲載済み。

【研究計画】

テーマ：前年の企画からの調査を基に現状分析を行い、具体的な対策を行う。

平成23年度も実施した、学校訪問や進学相談会に参加すること等によって、より効果のある具体的な研究を行う。平成23年度は、外部進学相談会を6回(広島2回、東京、京都、神戸、福岡を各1回)を参加している。平成24年度も7回の参加予定である。また、平成23年度に着手した美術学科のカリキュラムガイドの作成費にも費用の占める割合は高かったが、その効果は大変期待され、デザイン工芸学科も出来れば着手したい。

【研究経過・研究成果等との関連及び準備状況等】(第18号紀要報告より)

学長指定研究テーマ：平成20年度「本学の入試分析と今後の入試戦略」、平成21年度「入試広報戦略」、平成22年度の「入試制度」の流れによる視点の基で、平成20～21年度、研究代表者伊東敏光が指定研究「美術の専門教育・研究に関する大学と高校との情報交換方法の研究」に取り組んだ経緯がある。平成22年度より平成24年度までの3年間限定して、芸術学部入試制度全般に係わる検討課題を改めて再精査し、入試制度に関する諸問題を具体的に解決することを目的として設定した。

【改善点について】

平成24年度継続指定研究の選考結果による審査員のコメントより、以下に改善する。

1. 平成24年度の研究成果を全学へ還元及び全学への入試広報への発展を期待します。→(回答) 芸術学部カリキュラムガイドを含め具体的な発表にする予定である。事例：カリキュラム

ガイドの発刊。入学者へのアンケート調査の実施等、大学に還元できる内容を検討。

2. 芸術学部として今後どのように入試制度の施策課題を検証するのか検討して下さい。→(回答) 施策課題の検討については、芸術学部の入試制度そのものが少子化による過渡期的な変換期であり、その推移と予測をテーマに取り組みたい。

『当初計画目標』(以下、参考のために、第18号紀要報告より平成23年度までの目標を掲載)

[I] 入試制度についての具体的な問題点の精査

1. 学部入試制度の問題点、特に実施時期など、抜本的な分析と検討を加えて、最も有用で実効性のある制度の構築を行う。
2. 入試制度の課題を検討し実施するにあたっての対策を芸術学部全般で行う。

[II] 学部入試志願者動向のリサーチと対策。(関連及び準備状況等)

1. 大学進路説明会等の参加(各種進路説明会への参加)
2. 全国美術高等学校協議会との連携等の具体的な施策検討。(コース・学科設置高校の状況分析)
3. 全国美術高等学校協議会加盟校等へのアプローチ等。(協力関係の模索)
4. 美術系指導者対策(普通科等の高等学校美術科教員、予備校教員への対応。)

研究目的

芸術学部全体において次の課題に取り組む。

- ・入試制度の改革についての具体的な入試制度変更・移行は提言して、少なくとも2年後の実現になる。そのための、実行活動について、本研究で可能な限り行う。

【この研究計画の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義】

大学進路説明会等の参加について、進路対策として強化と補助を目的とする。また、コース・学科を置く高等学校の学部入学者の統計から、ほぼ約50パーセント(平成24年度においては50%を越える専攻も出てきている)になる全国美術高等学校協議会加盟校からの出身者で占めることから、その動向を把握する。全国美術高等学校協議会に効果的なアプローチをして芸術・美術教育の相互協力関係を構築する事を念頭に置く事とした。

【国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ】

本学芸術学部の教育内容の周知を計ることを目的とした。インターネットをはじめとする情報メディアを使つての学校紹介を行うと共に直接的な進路説明会や学校訪問による入試対策に抱き合わせた効果を狙う。

昨今の高等学校全日制普通科では、美術科の教員を配置しない傾向がある。さらに、学校の特色を打ち出すための高等学校がふえている。教育体制そのものに改革が進み、例えば中高一貫高等

の教育的な制度が編成されるなどの傾向が近年多く見られる。そのため、芸術系を志願する学生は、早くは中学校の進路選択から美術科・コースを設置する高等学校に集中する傾向があり、近年学部志願者は普通科の出身者よりもその比率が高いことが証明されている。

また、受験志願者の動向は年々変化するが、免許関係(教職、学芸員)の資格取得についての問い合わせが必ずあって、それらの対応について適切な資料を示している。(進路説明会の窓口調査での質問などによる) 本学在学者の進路状況では、教職、学芸員を取得して採用試験を受けて合格し、就職する学生もここ数年多くなっている。広島市の教員採用では、本学芸術学部より数名の採用を毎年輩出しているという実績の報告がある。(平成 25 年 11 月、広島市中学校校長中島先生談話による) このように効果のある教育課程を適切かつ的確に受験生・保護者及び指導者に周知してもらい、対策と方法について目指すことがこの研究の位置づけでもある。

【平成 23 年度からの入試状況結果についての分析】(参考のため、第 18 号紀要報告より掲載)

- ・早期から後期日程を選んだ日本画の結果については、高倍率を得たが彫刻については実質倍率が定員数に近く迄落ち込んで、分析の通りであった。
- ・油絵専攻は前期日程で微減の状況である。デザイン工芸学科については、微増の状況である。このことは、全国的な傾向の中で判定したい。

【平成 23 年度の入試のその後について】

専攻別の傾向では、前期日程のデザイン工芸学科・油絵専攻は入試の倍率についてはやや低調であったが定員に対して約 2.5 倍程度は確保。しかしながら、合格者を約 25 パーセント以上発表したため、入学者の増員が例年の定員より約 20 パーセント以上増えて両専攻共に受け入れスペースと教育設備品等の手当について至急の対策がなされた。

また、彫刻専攻の定員の 10 名に対して受験者が確保できるかについて予想した低い倍率となった入試の結果で定員の確保はしたものの学生の質的な能力や人材の質について、ほぼ全入の 23 年度生の今後の検証が待たれる。

【彫刻専攻自己推薦入試についての経過報告】

芸術学部彫刻専攻では平成 24 年度入試からの自己推薦入試を目指し、平成 21 年度から入試制度の調査・研究をおこない、他大学彫刻科などの自己推薦入試を参考に、広島市立大学芸術学部彫刻専攻自己推薦入試について、様々な角度から議論し、自己推薦入試内容を決定した。

平成 24 年度では自己推薦入試を行い、他大学彫刻科の自己推薦入試を参考に自己推薦入試について、入試委員会を始めとして様々な角度から議論し、入試内容を決定し行われた。

【平成 23 年度の取り組みの具体的な実施経緯について】

- (1) 入試のシステムの整備⇒①後期日程と②自己推薦制の実施についての調査。
- (2) 芸術学部の教育指針の対外的な広報や周知⇒③進路説明会への参加や高等学校等美術教育の研究会への参加。④広報としてのシラバスガイド編集と発行。
- (3) 芸術学部の教育指針の対外的な広報や周知
- (4) 進路説明会参加や高等学校の美術教育実態の研究会や懇談会への参加と予備校訪問。
 - ・進路説明会への参加→美術・デザイン系進学相談会「株式会社さんぼう」主催
平成 23 年 5 月会場「東京新宿 NSビル BF1 イベントホール」
 - ・美術・デザイン系進学相談会「株式会社さんぼう」主催
平成 23 年 8 月「広島国際会議場」
 - ・高等学校等美術教育の研究会→全国美術高等学校協議会 京都大会 11 月
 - ・各種予備校訪問 8 月、9 月
- (5) 広報としてのカリキュラムガイド編集と発行
シラバスに沿ったカリキュラムガイドの作成
平成 22 年度から間接的な広報活動として、外部の評価を高めるシステムの形成を目的に以前から着手されていたインターネットの活用と共に。すでに発行されている三学部構成のガイドブックに加えて、カリキュラムガイドの実質作成を美術学科のみ具体化(デザイン工芸学科は継続検討中)。

平成 24 年度報告

平成 24 年度入試：前期日程の油絵専攻は入試の倍率については、前年よりやや高くデザイン工芸学科は若干低かったが、定員に対して約 2.5 倍程度は確保。前年に続き合格者を約 25 パーセント以上発表したため、入学者の増員が例年の定員より約 20 パーセント以上増えた。昨年同様に受け入れスペースと教育設備品等の手当について至急の対策がなされた。後期日程では、日本画専攻の平成 23 年度試験日日程の変更により大幅な受験倍率のアップとなったが平成 24 年度では、5.5 倍から 4.4 倍になった。彫刻専攻では、定員の 10 名に対して志願倍率は 4.4 倍となった。

【取り組みの具体的な実施について】

- (1) 入試のシステムの整備⇒後期日程と自己推薦制の実施についての調査。
- (2) 芸術学部の教育指針の対外的な広報や周知⇒進路説明会への参加や高等学校等美術教育の研究会への参加。広報としてのカリキュラムガイド編集と発行。

以上の、2つを主なテーマとして取り組んだ。なお、平成 22 年度 23 年度と参加をしていた全国美術高等学校協議会との連携等の具体的な施策検討について、平成 24 年度は実施を見合わせた。

- (3) 芸術学部教育指針の対外的な広報や周知についての実施報告
- (4) 進路説明会参加や高等学校の美術教育実態の研究会や懇談会への参加と予備校訪問
- ・進路説明会への参加→美術・デザイン系進学相談会「株式会社さんぼう」主催
会場「兵庫県立美術館ギャラリー棟3階」、「みやこめっせ（京都市勧業館）」
 - ・高校訪問「大阪府立港南高等学校」6月
 - ・美術・デザイン系進学相談会「株式会社さんぼう」主催「博多スターレーン」7月
 - ・各種予備校訪問 福岡美術学院 7月
 - ・「広島国際会議場」8月
- (5) 広報としてのカリキュラムガイド編集と発行
経過報告：教育課程表に沿ったカリキュラムガイドの作成について、広報活動として、外部の評価を高めるシステムの形成を目的にインターネットの活用と共に、すでに発行されている三学部構成のガイドブックと、カリキュラムガイドの実質作成を美術学科と共にデザイン工芸学科も加わり芸術学部全体として取り組み発行を行った。
(発行の表紙デザイン及び内容は第18号紀要報告に掲載。)
カリキュラムガイド 発行：広島市立大学芸術学部特定研究グループ
指定研究費：「芸術学部入試制度施策課題の検討と実践的対応」
発行日：2013年3月

— 以上、平成24年度報告 —

：各専攻よりの研究報告：

- (1) 入試のシステムの整備（後期日程への変更についての推移）
[日本画専攻]
平成23年度：後期日程に変更した分析 → 日本画は、東京芸術大学との併願で実質的な倍率は確保されるであろう。また、愛知、金沢の動向について検討したい。（海老）
平成24年度：日本画の結果については、安定的な倍率を確保した平成19～21年度の約4.2前後の倍率に落ち着いている。（グラフ参照）
[彫刻専攻]
平成23年度：自己推薦入試開始前の後期日程でも受験生の関心がなく低倍率となった。
平成24年度：志願倍率は4.4倍となって高倍率を獲得した。
参考 [前期日程の油絵専攻及びデザイン工芸学科]
油絵専攻は3.4倍の志願倍率微増の状況。
デザイン工芸学科は2.9倍の志願倍率微減の状況。

- (2) 芸術学部全専攻の平成24年度についての見解

- ・後期日程日本画の結果については、高倍率を得たが4.2倍の3年前の状況となっている。
- ・彫刻については彫刻専攻AO入試（自己推薦）を行い成果が上がった。
- ・油絵専攻は前期日程で微増の状況である。全国的な傾向の中で判定したい。
- ・デザイン工芸学科については、過去5年以前を含む入学手続き者について推移を見たい。

本研究のまとめと今後の展望

本研究では、入試制度についての過年度からの取り組んでいる具体的な問題点の検討課題として、学部入試制度の問題点、実施時期や自己推薦など、急激な学生の減少など検証しつつ推移する動向に対応してきた。それらについては、芸術学部入試委員会を中心とした対応と実施について芸術学部全体の取り組みとして協力体制のもと行われ現状ではある程度の成果を得てきた。

学部入試志願者動向のリーサーチと対策テーマとしてあげた 1、大学進路説明会等では、平成24年度も全国各地に参加をして多くの対応を行う。2、美術系指導者対策では、全国各地の予備校や高校に出向き情報収集を行う等の具体的に研究分担者の努力による成果を上げることができた。

本研究での成果物としてカリキュラムガイドの実質作成が芸術学部全体として取り組み、授業作品等について教育課程表に沿った冊子の完成は前号紀要第18号で掲載をしたが、進路説明会などに使われるだけでなく、このカリキュラムガイドは、本学の芸術学部教育の姿勢について表明をしたものであり、これからの教育指針についても公表が出来るものとなりました。芸術学部全員の皆様のご協力に感謝いたします。

さて、今後の展望は、冒頭に述べた2018年には、大学進学者数について最も減少するとされる人口の少子化動向についての大きな構造的な本学部の取り組みが望まれております。芸術学部の教育指針のもとに入試対策や教育課程の編成が問われ、大学の評価や意義が社会で真に問われる時となりました。本研究についてこれからも継続した取り組みを新たな視点で望むものです。

志願者数

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
日本画	107	81	85	99	114	55	71	70	58	44	69	62	62	43	42	42	28	55	44
油絵	148	140	164	156	192	99	84	81	67	66	53	65	79	65	67	49	54	50	68
彫刻	61	55	69	73	59	37	40	29	37	45	36	36	29	24	22	27	26	16	31
デザイン	410	273	331	384	358	251	217	175	177	207	184	176	162	157	147	133	116	125	114

志願倍率

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
日本画	10.7	8.1	8.5	9.9	11.4	5.5	7.1	7	5.8	4.4	6.9	6.2	6.2	4.3	4.2	4.2	2.8	5.5	4.4
油絵	7.4	7	8.2	7.8	9.6	5	4.2	4.1	3.4	3.3	2.7	3.3	4	3.3	3.4	2.5	2.7	2.5	3.4
彫刻	6.1	5.5	6.9	7.3	5.9	3.7	4	2.9	3.7	4.5	3.6	3.6	2.9	2.4	2.2	2.7	2.6	1.6	4.4
デザイン	10.3	6.8	8.3	9.6	9	6.3	5.4	4.4	4.4	5.2	4.6	4.4	4.1	3.9	3.7	3.3	2.9	3.1	2.9

芸術学部志願倍率の推移

